

令和8年3月5日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立根岸幼稚園
所在地	台東区根岸3-9-7

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体と健康

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園は隣接する公園の他にも、小学校の体育館、校庭、2階にある独立した遊戯室などの環境がある。日常の遊びの中で体を動かす環境を整え、幼児が自ら「やってみたい」と思い、体をしっかりと動かして遊ぶことで、内面から力が湧き、自信をもって自己発揮・自己表現ができるようになってほしいと考え、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・毎日の戸外遊びの充実
- ・月1回以上の地域散策を通して、歩くことでの健康な体作り
- ・講師による親子運動教室
- ・体に関心をもつことで、自分の体の変化、人との違いや共通点への気付き

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・サッカーボール、巧技台など
- ・公園や動物園など季節や実態にあわせた地域散策の実施
- ・親子運動教室の講師の招聘
- ・運動遊びを行っていく中でできるようになったことが実感できる環境や、友達のよさに気付けるような環境の工夫

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・毎日の戸外遊び（上根岸公園、小学校の校庭・体育館）
- ・講師による親子運動教室の実施と保護者へ体を動かすことの大切さを伝える
- ・5歳児の鉄棒カードの取り組みや、互いのよさを伝え合う機会づくり

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【3歳】親子運動教室では、親子で触れ合いながら遊ぶ大切さを保護者が実感することができた。日々の遊びの中で、公園での遊具、簡単なルールのある遊び、縄跳びなどに関わり、年上の友達の遊び方を見ることで、様々な遊び方を知り、多様な動きを楽しむ姿が見られた。広い校庭や小学校の体育館では伸び伸びと体を動かすこともでき、体を動かす心地よさや楽しさを感じることができた。

【4歳】親子運動教室で講師の先生からご指導いただいたことで袋を使った遊びに興味をもち、幼児の動きの幅が広がった。地域散策に繰り返し出かけるなかで、到着までの所要時間が短くなり、基礎体力の向上とともに、幼児が自信をもって歩みを進める姿が見られた。上野公園では散策を楽しみながら自然と土の山を登った遊びをして伸び伸びと体を動かす姿があった。

【5歳】親子運動教室で行った袋を使った遊びを気に入り、好きな遊びの中でも自分たちで再現して繰り返し遊ぶ姿が見られた。近隣の公園と併設小の校庭を活用することで、子供が思い切り体を動かすことができた。また、縄跳びやフラフープ、鉄棒など、自分なりのめあてをもって取り組む遊びに時間と場の保障ができたことで、意欲が高まったり子供同士で刺激しあったりする姿につながり、満足感を味わうことができた。さらに、幼児が扱いやすいボールを導入したことによりボール遊びへの興味が高まり、子供同士でボールを使った遊び（ドッジボールやキャッチボール、的当てなど）をする姿が増えた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

【3歳】3歳児では特に体を伸び伸び動かして遊ぶためには「安心感」「信頼感」が大切であると感じた。様々な動きや遊びを「やってみたい」と思い、自分なりに関わるには「安心して自分を出せる場」であることが不可欠だった。新しい場・人が苦手な子供も多いため、親子での運動教室はとてもよい機会となった。保護者の方にも親子でふれあいながら運動遊びの大切さや楽しさを伝える機会となった。日々の遊びや生活の中で子供と教師との信頼関係を築き、一人一人の子供が思いを出しながら伸び伸びと遊ぶことを繰り返し楽しみ、自分たちで考えながら様々な遊具を組み合わせたり、新しい遊び方を考えたりする姿につながっていった。

【4歳】運動遊びは「こんなこともできるかもしれない」「これを使ってあんなこともできるかもしれない」という幼児の思いをふくらませ、「こんなふうにしてみたい」という意欲を引き出すことができると気付いた。遊びを進める中で運動遊びはスキルだけを身に付けるものではなく、人と関わる楽しさを感じていた。運動遊びを通して人と関わり、イメージを共有しながら繰り返し楽しむことで、運動そのものもより楽しくなるのだと気付いた。

【5歳】子供が「やってみたい」と思わず体を動かしたくなるような教材と遊びを提示することの大切さに気付いた。幼児の発達と興味に合ったものを取り入れることができれば、子供は繰り返し遊び、運動の面白さを味わうことができる。それを教師自身が意識して実践することを大切にしていきたい。

以上